

先進の技術で快適な金融システムを目ざして Advanced Technologies for Financial Systems



石黒 信吉
Nobuyoshi Ishiguro

最近の金融機関における環境の変化は目覚ましいものがあります。本格的な金融自由化の進展、規制緩和の拡大、また、パソコンの普及、ネットワーク社会の進展といったマルチメディア社会の到来などであり、これらの環境変化に対応するため金融機関はよりいっそうの生産性の向上を求められています。

一方で、金融機関は機械化、コンピューターリゼーションがもっとも進んだ業界でもあり、新しい技術を取り入れることでも積極的です。

今回の特集では、金融機関向けのシステムや機器が、これらの環境変化に対応していくための最近の技術動向や今後のシステムの方向性について紹介いたします。

従来の金融機関の機械化は経営効率向上のための人員の削減、処理時間の短縮を目的とした省力化が主体であり、従来人間が行ってきた作業、たとえばデータの入力、現金の計数などを機械化したものです。これらの機械化はOCR（光学式文字読取装置）による認識技術や精密なメカニクス技術、基盤となるエレクトロニクス技術、ソフトウェア技術を用いた専用のシステムや機器を開発して対応してきました。これに対し、機械化、省力化が一段落した今後は顧客サービスの向上、効率化の追求、ネットワーク社会への対応が求められています。つまり、質の高いサービス向上と投資効率の向上のため、より使いやすく、より高速で、より安価で、よりセキュリティの高いシステムや機器の開

発が求められています。最近のパソコンや携帯電話などのマルチメディア機器の目覚ましい普及ぶりはハードウェアやソフトウェアの標準化、オープン化がもたらしているもので、安価な大量の製品を送りだしています。金融機関向けシステムもこのような汎（はん）用性のある技術、製品をベースに構成され、ローコストで時代の変化に即応できるシステムとなっていくといえます。

このような状況変化に対応するため、当社では従来からの得意分野である文字や画像の認識技術、精密メカトロ技術を核にマルチメディア技術やシステムインテグレーション技術を駆使した技術開発を進めてまいります。具体的な方向としては、マルチメディア技術の取込みによる金融サービスの拡大、最新のソフトウェア技術による開発のスピードアップと効率化、媒体処理の高速化、高信頼性の確保、エルゴノミクスデザインを取り入れた操作性の改善、バリアフリー技術の導入、機器の小型・ローコスト化、システムのネットワーク化、セキュリティの向上などを目指しています。また、従来の枠を越えた営業店全体のシステムインテグレーションも今後の重要な課題となってきます。

今後とも金融機関のニーズを的確に把握し、マルチメディアなどの新技術を取り入れた提案を行い、金融機関の経営効率向上に貢献できるシステムや機器の開発を進めていきたいと考えています。